

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価書	学校関係者評価	
教育課程・学習指導	A	基礎学力と伝え合う力を身につけ、生活に活かす子どもの育成	心の教育の推進 基礎学力の定着向上 言語力の向上	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	学習部は道徳と算数の授業改善、児童理解部はアンケートや調査の分析を行い、両部が連携して課題克服に取り組む。	○学校評価アンケート(教職員)分かる授業に努めている100% ○単元テストの設定正当率を上回る。	・分かる授業に努めている93% ・1学期→ほぼ上回る ・2学期→ほぼ上回る	・授業研究および研修計画の早期立案。 ・校内学力向上支援体制の見直し。 ・伝え合い、学び合いの授業の確立。 ・聴く力の継続と思考力、発言力育成へ。 ・高学年の学習時間達成率の上昇対策。 ・家庭読書の習慣形成への取組。	・先生方も熱心で、団結して良く取り組んでいる。目標もほぼ達成されている。ただ、クラスによっては、分かる授業が出来ていない面も見受けられる。限りなくAに近いBである。評価はAとBが同数であったが、今後の期待も含めBとした。	B
				子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	話し合い活動による課題解決の授業実践。 授業評価の活用。	○学校評価アンケート(児童)の学習に関する項目の肯定評価の向上。100%により近づける。	・授業が分かる94% ・授業のくふう87% ・聴く95% ・発言する74%			
				学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組	家庭学習の基準時間の定着と授業に活かす工夫。 読書環境、家庭読書の充実。	○家庭学習調査の学習時間の達成度を8割から9割に上昇させる。	・1学期→平均91% ・2学期→平均84% ・学校評価児童88% ・保護者86%			
生徒指導	B	豊かな人間関係づくり	相手の立場に立って考え、行動できる子どもの育成	○Q-Uアンケートを活用した学級経営の研修。 ○縦割り班活動や体験活動の充実を図り、出会いと気づきをポイントにした人間関係の指導を行う。	○道徳アンケートの自己肯定感A/B評価を80%に近づける。 ○課題のある児童のQ-Uアンケート結果の改善。	・1学期末→69% ・2学期末→64% ・アンケート結果では要支援3~2へ侵害行為認知6~2へ減少している。 ・新たな課題の出現もあり、全体で取組。	・自己肯定感の育成についての研修会の実施。(保護者も) ・体験活動の見直し ・児童の主体的な取組や活動について検討。	・目標はほぼ達成されている。あいさつも良くできている。自己肯定力を80%と高い目標を設定していて素晴らしい。学年や一部の児童に勝手な行動が見られる事が残念である。	B	
保護者地域との連携	A	信頼される開かれた学校づくり	学校行事等を通して、保護者や地域とのつながりを確かなものとする 学校教育への関心を高め、児童の健全育成への支持的風土をつくる	○学校だよりの地区回覧による情報の発信。 ○民生委員や工科大学学生サポートとの連携。 ○保護者の授業参観や学校行事への参加者増のための工夫。 ○家庭読書のすすめ。	○授業参観、学校行事への参加者数の状況。 ○「ふれ愛かたじ」地域の参加状況。 ○学校評価アンケート(保護者)の「学校は子どもや保護者、地域の声を反映しているか」のそう思うを50%以上にする。 ○家庭読書の実施率。	・学校だよりの地域回覧(月1回)・育てる会、民生委員連絡会の定期実施。 ・ふれ愛かたじで地域連携。 ・工科大との連携拡大 ・保護者アンケート→82%(A評価20%) ・参観日60~70%懇談会50% 行事80% ・家庭読書定着30%	・地域への情報提供および連携の継続と更なる充実。 ・工科大との連携内容の検討。 ・PTA行事の実施時期の検討。 ・懇談会ならびに研修会の内容等の見直し。	・情報発信は良く改善されている。「ふれ愛かたじ」も盛大であった。工科大、地域、民生・児童委員との連携も高い。ただ、PTAとの連携を高め、懇談会や研修会への参加向上に努めてほしい。	B	
特別支援教育	B	良さを認め合い、仲間とともに良く成長する	障害を正しく理解し、良さを伸ばす支援体制の確立と指導の工夫、改善	○校内委員会の定期実施により児童の成長をきめ細かに把握し、指導に活かす。 ○支援会議の実施および支援シートの整備	○児童の成長の記録。 ○支援会議の実施状況と支援シートの整備状況。	・月1回の校内委員会で変化と手立てを共有できた ・夏季研修で児童理解が深まった。 ・支援シートの記入で保護者や関係機関とのベクトル合わせができ、児童に有効であった。	・校内委員会の効率化の工夫。 ・情報収集の工夫。 ・自立に向けてのサポート体制の拡大。	・学校全体で情報を共有し、頑張っている。保護者や関係機関とのベクトル合わせができています。通常学級との連携など、引き続き頑張ってください。	A	
安全教育	B	自らの命を自ら守ることができる子どもの育成	授業や定期的な訓練の実施、環境整備により常に危機管理意識を保持し、発達段階に応じた危険回避能力を身につける	○授業や訓練の工夫。 ○保護者や地域の参画を呼びかける。 ○学校施設、設備の安全管理の徹底。	○授業および訓練の実施状況。 ○個人カードの記述内容。 ○保護者、地域との連携状況。	・起震車体験以外は計画どおり実施。年度始めの実施が効果的であった。 ・引き取り訓練で保護者と連携。振り返りカードの評価はほぼ良好である。 ・地域や工科大との連携が課題である。	・保護者、地域とともに学習する機会を設け、安全意識と知識を身につける。 ・命の学習とつなげた指導を行う。	・目標はほぼ達成している。引渡し訓練、振り返りカードの評価も良い。目標が地域との連携は高すぎるのでは。交通量が多いので、地域、保護者の協力を高めてほしい。	B	